

# 留学行って一日で帰ってきた話



関空発マニラ着 エアアジアZ2 189便

## はじめに

これは私がフィリピンに春休みの期間を使って二週間の短期留学を試みた話だ。  
留学行って一日で帰ってきたといえば某元中央大生が頭に浮かぶ方が多いと思うが決してそういう話ではないことはご留意願いたい。

## 1日目

時は2020年3月中旬。私は念願のマニラへの短期留学へ旅立った。新型コロナウイルスの流行があることは知っていたが、当時はまだ情報が出揃っておらずあまりことを重大には受け止めていなかった。父親や留学先との連絡でなんとかなるだろうと言うことで旅立ったわけだ。

そして関空を飛び立った飛行機は4時間半かけてフィリピンはマニラにあるニノイ・アキノ国際空港に到着した。入国手続きを足早に終わらせてあまりに遅すぎるフリーWi-Fiで日本にいる友人と両親に到着した旨のメッセージを送信した。

荷物を受け取る際の遅さにはWi-Fiスポットの遅さより驚いた。荷物の素早さとフリーWi-Fiの速さから日本の空港の凄さをダブルで感じた。

SMARTのSIMを購入しUMIDIGI XIに入れてセットアップをしてもらい、留学先の担当者と合流。タクシーに乗って滞在先へ向かう。到着してから知ったのだが、街はロックダウン前夜で大急ぎ。よって道は激混みだ。滞在先に到着し、夕食をいただく。全体的に味が濃いだが、食べやすく日本人経営のところへ行ったら正解だったと思った。



1日目に頂いた夕食

## 2日目

まだ日曜日で昨日合流した担当者に手を引かれて周辺の説明を受け、ショッピングモールでランチ。Jollibeeという現地ではマクドナルドよりもメジャーなファストフード店へ。全部で400円。なかなかコスパがいい。コロナがなければなかなかコスパのいい旅ができたのではという点が悔やまれる。



Jollibeeのランチセット。結局最終日の空港でも食べることになるのだが...

### 3日目

最初で最後の授業を受けた。自分が止まっている部屋へ先生が来てくれてそれで授業を受ける形式だ。一日八時間のプランでなかなかハードだったことを覚えている。

そして夕方。適当に授業が終わったので適当に時間を潰そうと思いショッピングモールへ。

イヤホンを忘れたのでそれと適当にSamsung製の2Gガラケーを購入。

途中にSamsungやOPPOのストアがあったのでなんとなく店内に入りデモ機を触った。

Galaxy A80など日本ではなかなかお目にかかれない端末を触ることができ、非常に感動した。



OPPOのストア



Samsungのストア

### 4日目

衝撃の事実を聞かされる。なんとフィリピンに滞在する外国人は全員72時間以内に帰国しなければならないという大統領からの発表があった。当然授業はなくなった。

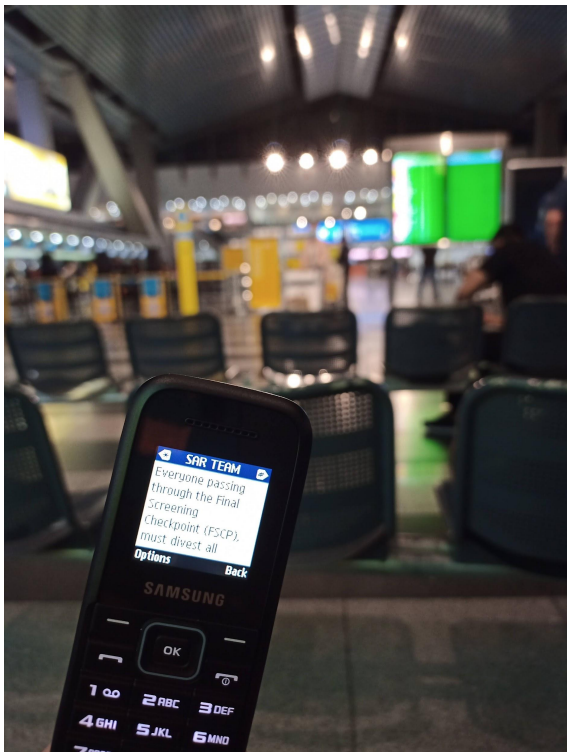


すぐに日本にいる父親にパニック気味で電話をかけた。飛行機は問題なく確保できたので落ち着いてほしいと言われたが何も知らない何もかも違う異世界同然の場所で何を信じればいいのか何から情報を得ればいいのかなど何もわからない状況で落ち着くことなどできず、結局その日は午前二時の出発へ向けてパッキングし寝ることにした。結局1時間半しか眠れなかったのだが。

## 5日目

午前二時から滞在先を出発。事態が緊迫していたため全く眠気がなく、愛する日本国へ、家族と友人の待つ日本国へ戻ることを祈るばかりだった。

陸軍が銃を持ってジープで街を巡回しているという情報をキャッチしていたので心配する反面それはそれでおもしろいのではないかながら空港へ。イクリプスクロスで向かったのだが車体が大きいにもかかわらず後部座席が非常に狭く感じた。月登録台数1000台以下も納得だ。



Samsungのガラケーが受信したエアメール。後ろを見てもらえば分かる通りまだガラガラの時間帯だ。

空港にいて気づいたのだが、鳩や虫が多く感じた。空港、特に国際空港はそのような生物の侵入を防いでいるものと思っていたが特にその様子はなく結局手荷物検査を抜けてもいたため管理の甘さがよくわかった。

何もすることがなく、隣にいた奈良から来たという日本人としばらく話すことに。思想的な話が多く非常に疲れたことが非常に印象深かった。

そして意味のない十二時間の末にやっと関空行きの飛行機へ搭乗。機内はほとんどが日本人で皆同じ境遇だっただろう。結局その便を運行する航空会社は私が乗った便を最後に大規模リストラを行い便はすべて消滅。自分はいつもギリギリで生きているなあとつくづく思う。

関空に何とか到着し、呆れ顔の妹と母親が出迎えてくれた。荷物を受け取り普段なら行くバーガーキングをパスし家路を急ぐ。

家についての瞬間に体の力が全て抜けた。「あゝ、ここが我が家か。」と心の底から感動した。



フィリピンから脱出する際に乗った飛行機の機内。これを下回るブルーなフライトはないだろう。

## 最後に

ここまで私のフィリピンでの思い出を書いてきた。殆どがトラブルだったが私は一切後悔していない。むしろ行って正解だったと感じているほどだ。100年に一度のパンデミックと言われているが、一生に一度体験できるかどうか怪しいレアな体験ができたと考えているためだ。

新型コロナウイルスが収束次第すぐに行き、体験できなかったことや学べなかったことを学びたいと考えている。そのためにもワクチン接種やマスクや手洗い、手指消毒や換気などのコロナ対策を徹底していく所存だ。